

## 実践報告

# きゅうちゃんの歴史 (IV)

## —広がり続けるきゅうちゃんの教育的役割—

石田ゆき<sup>1)</sup>

ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・きゅうちゃん・ビジュアルテキスト・出席確認・広がる視野

### 概要

本稿は石田(2024a)の続報である。「きゅうちゃんの歴史」論文シリーズの第四弾である。前報では「カラーイラスト版きゅうちゃん」の「出席確認」への活用方法を紹介した。本研究では新しいデザインのカラーイラスト版きゅうちゃんを用い、前報同様「出席確認」のワークを実施した。しかし、そこから得られたデータは、単なる出席確認に納まらない、個々人の創造的営みを示すものであった。学習者は主として前報で筆者の授業を受けていた学生たちである。看図アプローチ基盤型授業を繰り返し体験することで蓄積される力・変化・成長を報告するとともに、「きゅうちゃん」が担う教育的役割について考える。

### I. はじめに

石田(2022)ではきゅうちゃん誕生秘話を、石田(2023)ではきゅうちゃんの「ちょこっと使い」を、そして石田(2024a)では「カラーイラスト版きゅうちゃん」の「出席確認」への活用方法を紹介してきた。本稿は「きゅうちゃんの歴史」論文シリーズの第四弾となる。

本稿で紹介するのは、石田(2024a)と同じく「出席確認」ワークとしてきゅうちゃんを活用した実践である。石田(2024a)の「教育学」授業を1年次に履修した、新2年生に向けての実践である。ただし、履修生57名のうち6名は「教育学」授業を受講していない学生である。この6名以外は、1年次に「看図アプローチ」を基盤とした授業を8回受けている。それと同時に、学生たちはカラーイラスト版きゅうちゃんの「出席確認」の

ワークをすでに8回行っている。ビジュアルテキスト(きゅうちゃん)を読み解く素地ができている学生たちである。そんな学生たちがどんな読み解きを見せてくれるのか紹介していきたい。実施科目は「教育心理学」(選択科目・全8回)である。

鹿内(2025)は「カラーイラスト版きゅうちゃん」を「出席確認」に活用することの教育的意義を考察・整理している。筆者も、鹿内が整理している教育的意義を共有しながら、今回報告する新しい実践を行った。

なお本稿では、書面にて承諾を得ている者の記述例をデータとして活用する。

### II. カラーイラスト版きゅうちゃんの新デザイン

カラーイラストになっても、きゅうちゃんはビジュアルテキストである。そのため「曖昧・空所・

1) 日本医療大学

対立・欠落等を含むように設計した絵図は創造性を発現させる(鹿内編著 2014,p.107)」ことを考慮して制作した。2024 年度前期「教育心理学」授業で使用したイラスト 8 枚を以下に載せておく。全て筆者のオリジナル作品である(図 1～8)。



図 1



図 2



図 3

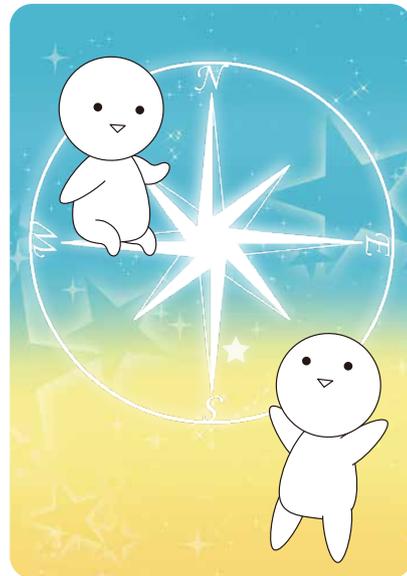


図 4



図 5



図 6



図 7



図 8

### Ⅲ. 出席確認用きゅうちゃん活用の実例

#### Ⅲ-1 実施手順・教示・ワークシート

実施手順と教示・ワークシートを以下に示す。教示に使用するスライドは、スライド1のように左半分にイラストを、右半分に作業内容を示すかたちにした。石田（2024a）では白地背景にイラストのみというシンプルなものであったが、作業内容をいつでも確認できるようにした。授業ごとにイラストだけを置き換え、作業内容を統一して教示するように配慮した。このスタイルは2024年度前期から導入し継続している。



**【出席確認のワーク】**

- ①学籍番号・名前を記入
- ②このイラストにタイトルをつけてください。(タイトル)
- ③そのタイトルにした理由を簡単に書いてください。(解説)

タイトルと解説を自分のノートにも書き写してください。(レポートでより詳しく書いてもらいます)

- ④メンバーの名前orマークを書き(描き)入れてください。

スライド 1

実施手順

- ① 1 グループが 4 人になっているか確認する。  
(出欠の状況に応じて 3～5 人までの構成とする。できるだけ 3～4 人構成にする。)
- ② 1 人に 1 枚のワークシート (出席確認用紙) を配付する。(事前配付する)
- ③ その日のイラストを呈示し、教示を口頭とスライドで伝える。
- ④ 学生は出席確認用紙に学籍番号・名前・タイトル・簡単な解説を記入する。
- ⑤ ノートにタイトルと簡単な解説を転記する。  
時間に余裕がある者は追加の解説メモをつくる。
- ⑥ グループメンバーの名前もしくはグループの共通マーク (簡単なイラスト) を描く。
- ⑦ 出席確認用紙をグループで一束にしてもらい、回収する。

教示・ワークシート

【教示】

このイラストに、タイトルをつけてください。出席確認用紙 (ワークシート) には、学籍番号・名前、タイトルを書いてください。そして、どうしてそのようなタイトルにしたのか、理由を簡単に書いてください。ひとことでも一文でも良いです。ただし、その内容はあとでレポートにも詳しく書いてもらいます。今考えたタイトルも忘れないようにノートに転記してください。

(数分間記入時間をとる)

グループのみなさんの様子を見て、書き終わっているようでしたら、記入用紙の右上の □ の中にグループのメンバー全員の名前を書くか、グループのみなさんと相談して共通のマークを描き込んでください。

「教育心理学」出席確認用紙

学籍番号 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

簡単な解説 \_\_\_\_\_

↑グループメンバーの名前  
または  
グループのマーク



「教育心理学」出席確認用紙

学籍番号 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

簡単な解説 \_\_\_\_\_

↑グループメンバーの名前  
または  
グループのマーク



「教育心理学」出席確認用紙

学籍番号 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

簡単な解説 \_\_\_\_\_

↑グループメンバーの名前  
または  
グループのマーク



「教育心理学」出席確認用紙

学籍番号 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

タイトル \_\_\_\_\_

簡単な解説 \_\_\_\_\_

↑グループメンバーの名前  
または  
グループのマーク



ワークシート

(実際は A7 サイズ。授業 2 回ごとの席替えと共にきゅうちゃんのデザインを変化させた。記入してもらおう項目内容は共通である。)

グループメンバーの名前を書いてもらう、もしくはメンバーで共通のマークを描く。このプロセス（実施手順⑥）は、いわばアイスブレイク前のアイスブレイクである。2年生ともなるとまわりは知り合い・友人同士という場合が多いかもしれない。しかし、後に学生のレポートでわかったことであるが、「グループで一緒になった人がみんな初めましてだった」ということが案外あるようである。2年生になっても、いつも一緒にいるような友人以外はなかなか接点がないものなのかもしれない。入学したばかりの1年生でも同じであるが、学習環境を少しでも和やかにしていくため、このような協同学習のための“準備の準備”を行っていくことも大事なことなのではないだろうか。

メンバーの名前を書くなら、最低限、名札を見せ合うというアクションを起こせる。また「私は〇〇です」と発言することで簡単な自己紹介になる。共通のマーク（簡単なイラスト）なら、話し合いが起こるので、その時点でも簡単なアイスブレイクが成立する。この小さなステップだけでも、協同学習に入るための主体的行動を引き出すことが期待できる。

### III-2 各イラストの記述例と考察

石田（2024a）と同様に、各授業の後に毎回、「タイトル」と「そのタイトルにした理由」「授業の感想等」を課題としてレポートを提出してもらう。レポートはメールもしくは Teams のチャットから、翌日までに提出してもらう。

以下に、各回の授業でそれぞれどのような記述がなされたのか紹介していく。イラスト番号は授業回と対応している。明らかな誤字脱字は修正してある。また、性別に関する個人情報に配慮し、一人称は「私」に統一して掲載する。



イラスト 1 の記述例

#### ●学生1のタイトルとそのタイトルにした理由

##### 【最高の気晴らしへ】

2年生になって授業の内容がボリュームアップした今、実技試験の練習など辛い日々が続いている。そんな時、気晴らしにでも行きたくなくなったきゅうちゃん。一緒に傘に乗って飛んでみようと考えた。もう一人のきゅうちゃんは賛成し、色々な場所へと旅へ出る。そこには、美しい自然、環境、今まで見たことのない景色、様々なものが広がっていた。そして、そこには将来の夢であるセラピストもいた。きゅうちゃんの目には輝いている姿が映り、数年後あの場にいるのは自分だと改めて考え、今を乗り越えようと決心した。今は辛くて厳しい戦いだが、今の頑張りで将来の自分が決まってくる。だから、今が大切な時期である。空を飛び見たことのない景色を見に行くというきゅうちゃんたちのちょっとした気晴らしが、今の自分を勇気づけ、強い自分にした。とてもいい気晴らしになったねと帰ってきたのであった。

#### ●学生2のタイトルとそのタイトルにした理由

##### 【相合傘】

理由として第一に、仲の良さそうな家族に見えるきゅうちゃんが微笑ましく相合傘をしている様子がダイレクトに伝わったからである。小さい方のきゅうちゃんが少し照れているような表情を見ると、親を傘に入れてあげて感謝をされているような描写に見えて、私自身の心が温かくなった。第二に、今日は朝から雨が降っていて、ほとんどの学生が傘を持参していたことが印象的だったからである。タイムリーな絵だなと感じると同時に、黄色い傘によりスポットが当たって見えた。

不思議と教育心理学の講義が終了した頃、外に出ると雨が止んでいた。雨雲がきゅうちゃん

んの世界に行ったから黄色い傘をさしていたのかなとロマンチックな気持ちになった。第三に、きゅうちゃん達と黄色い傘が真ん中であって、そのシーンを美しく表すかのように外側に雨がキラキラと添えられているように感じて、きゅうちゃん達に映えるような構成になっていると感じたからである。この絵を象徴とする言葉として、「相合傘」という一言で表すのが一番しっくりきた。

学生1と2の記述は、「最近のこと」「今日のこと」と結びつけた内容になっている。学生1は実際に感じている勉学への苦労や将来への不安を、きゅうちゃんと一緒に解消していくようなストーリーをつくってくれている。学生2は、この授業の日の空模様と重ねて叙景的な記述をしてくれている。ふたりとも、その日・その時間・その場所にいる自分自身をきちんと認識しながら書いてくれたことがうかがえる。



イラスト2の記述例

●学生3のタイトルとそのタイトルにした理由

【追いつけないよー！】

下のきゅうちゃんがもう1人のきゅうちゃんと鳥さんに「追いつけないよー！」と叫んでいるように見えたからです。下のきゅうちゃんは木登りが少し苦手ななかなか上にいる2人に追いつけません。その状況が今の自分と少し似ているなと感じました。自分も精一杯頑張っているはずなのに差が縮まらなくてもがいている、そんな状況が最近ありました。このきゅうちゃんを見て私と一緒にだなど思ったと同時にそんなに2人の間に差がないようにも見えました。自分と他人との差は大きく見えるけれど他の人から見れば大差ないのかもしれない、そう思いました。これからは焦

ることなく自分のペースで進んでいっていいんだと思えて少し気持ちが楽になりました。

●学生4のタイトルとそのタイトルにした理由

【キツツキに弟子入りするきゅうちゃん】

2人のきゅうちゃんは2人で住む家が欲しくなり、せっかくなら木の上に作ってしまおうと張り切っている様子だと考えたからです。そこで家を自分達で作るために、キツツキに弟子入りし頑張っている場面だと思いました。下側にいるきゅうちゃんは、キツツキの真似をして穴を掘ろうと頑張っていたが、全く空かずに諦めてこっちを見ている様子だと感じました。上のきゅうちゃんは、写真の木の上にいるもう1羽のキツツキの技を見て盗もうとしているのではないかと思いました。

①(筆者注；このきゅうちゃんの出席確認課題)について考えているときに、幼い頃に大木に大きな穴を空けて秘密基地を作りたいという妄想をしていたことを思い出し、きゅうちゃんに取り組む際は子供心を蘇らせることでより良いものを作ることができると思いました。

学生3は、きゅうちゃんたちの距離感と、自分と他人との差を重ねて考えてくれた。人と比較して劣等感を抱いてしまったり、焦りを感じたりすることは誰でもあることだろう。そんな心境を、きゅうちゃんというフィルターを通して見ることで「気持ちが楽にな」ったと伝えてくれている。

学生4は、きゅうちゃんとの向き合い方を発見してくれている。学生4は、きゅうちゃんと向き合うときには「子供心を蘇らせること」が有効であると独自の発見をしている。きゅうちゃんは、見る人の年齢や記憶も自由に行き来し、表現をファシリテートしてくれる「変幻自在的存在＝multi-being」(鯨島・石田2023)なのである。



イラスト3の記述例

●学生5のタイトルとそのタイトルにした理由

【謙虚】

きゅうちゃんは翼をもっていますが、翼を使っているようには見えません。空を自分の足で歩いているかのように見えます。きゅうちゃんは、翼をもっているが「飛ぶ」という選択はせずに「歩く」という選択をとっています。私なら、絶対に翼で空を移動します。それは楽し、自由を象徴する翼を存分に使いたいと思うからです。イカロスのように、太陽に翼を焼かれるまで飛び回ると思います。ですが、きゅうちゃんはその翼に頼らず自分の足で移動しています。そんなきゅうちゃんを謙虚だなと思いました。謙虚な姿勢は、とても大切なものだと思います。私は、謙虚な大人の方を尊敬します。なぜなら、大人になるにつれ格差をつけたり、おごり、いばります。私は、そんなふうにはなりたくないです。なので、きゅうちゃんのように謙虚な姿勢を忘れずに、持ち続けたいと思います。

●学生6のタイトルとそのタイトルにした理由

【救世主】

このきゅうちゃんは天使で、いつも天から見ていて地上でピンチになった人がいれば、降りてきて助けてくれる。しかし頑張っている人限定で。頑張っていれば見てくれている人がいてピンチの時は助けてくれる。そんなことをこのきゅうちゃんを見て感じた。このようなことはすべて自分で抱え込むタイプの人に起きやすいと思う。どうしようも無くなるまで一人で抱え込む前に人に助けを乞うことも大切だ。自分も最近それを強く感じる出来事があったためよくわかる。その時言われたのが、「全部自分でやろうと思ったべ、それじゃダメだよ。でも、それは目の前のことだけで精一杯だったのが全体を見渡せて視野が

広がったってことだべ。」という言葉。自分でこなせなきゃ成長出来ないと思っていた自分にとってすごく印象に残っている。自分で出来るが増えるのは間違いなく成長ではあるが、時には人に助けを乞うことの大切さを学んだ。

学生5は、「謙虚」であることの大切さを、既有知識と関連づけて力強く伝えてくれている。飛べるけれども飛ばない。地に足をつけて堅実に謙虚に生きることの難しさと大切さを改めて考えさせられる内容である。

学生6は、ひとりががんばることの大切さと、それでも誰かに助けてもらうことの大切さを、自身の経験から語っている。人として生きる上で大切なことを再確認させられる内容である。

イラスト3はとくに、ここで紹介する記述例を選ぶのに苦心した。学生たちはイラスト3を様々な読み解き独創的な記述をしてきていたのである。多くの記述例を割愛するのが申し訳ないくらいである。授業者の主観的な感想ではあるが、多くの学生たちにとっては1年ぶりの活動であるが、提出された記述からは学生たちの大きな成長が感じられた（履修生57名のうち、51名は1年前に筆者の「教育学」授業を受講していた）。筆者は「人は1年でこんなにもおとなになるんだ」と思いながら学生たちの記述を読ませてもらった。



イラスト4の記述例

●学生7のタイトルとそのタイトルにした理由

【今年の恵方巻き】

方角のオブジェの近くにいる2人のきゅうちゃんは、今年の恵方巻きの方角について悩んでいるように見えました。でも、結局わからなくて好きな方を向いて願い事をしながら食べたんじゃないかなと思います。背景の色を見て、日の色と空の色が描かれているけど、

星も描かれています。私は空を見たり、星空を見たりするのが好きです。この色合いと星を見て、明るい昼の時間に星空が見えたら綺麗なんじゃないかと思いました。2人のきゅうちゃんは、恵方巻きの方角がわからずに食べちゃったけど、願い事が叶えばいいなと笑い合っているように見えました。

●学生8のタイトルとそのタイトルにした理由

【決めた道の先は】

上のきゅうちゃんは、羅針盤の上に乗って下のきゅうちゃんに何か話していて、下のきゅうちゃんは上のきゅうちゃんにスッキリとした表情を向けているように見えます。

きっと下のきゅうちゃんは、何か道を選ばなければいけない場面に遭遇していて、ずっと悩んでいたのです。そして、上のきゅうちゃんは未来からやってきた自分で、「どの道に進んだとしても、今のきゅうちゃんの人生の無駄には決してならないよ。沢山悩んでいいし、どの道を選んだっていい。だから自分の心に正直に選んでごらん。」と、下のきゅうちゃんの背中を後押ししてあげているのだと思います。

自分自身も沢山悩むことがあるし、一体どの道を選べば正解なんだろうと思うことがあります。選んだ道の先にたくさん辛いことがあって、もう辞めたいと思うことが何度も何度もありました。でも、その経験が無駄だと思ったことはありません。その辛い経験があったから、「まあ、あの時のあれに比べれば何ともないな」「あれを乗り越えられたんだから、今回もきっと何とかなる！」と思えます。だからこれからも、自分に起こる全てのことは、自分の人生において必然だと思って生きていきたいと思っています。

学生7の読み解きは明るく、読み手を笑顔にするものではないだろうか。「方角のオブジェ」を「恵方巻き」と見たのは学生7だけでユニークである。恵方が正しいかわからなくても、自分が幸せを感じられれば良いという、良い意味で楽観的な、ゆるやかな思考が心地良い読み解きである。

学生8の読み解きもまた読み手の気持ちを明るくし、すっきりさせてくれるものではないだろうか。自分の歩む道や方向性に迷うことがあっても、それまでの経験をいかして「必然」と思って進んでいく。まさに「背中を後押しして」もらえる内容である。他の学生の記述を見ても道や方向性をテーマとした者は多かった。将来への不安を示しながらもそれを乗り越えていこうという強い意志が表明されているものがほとんどであった。



イラスト5の記述例

●学生9のタイトルとそのタイトルにした理由

【お届け物です！】

まずこの絵を見た時に、前のきゅうちゃんのタイトルにあったコゲラの絵と繋がっていると思いました。(木の枝などが背景に写っている。)なので、この手紙はコゲラにきゅうちゃん達が届けていると思いました。コゲラと一緒に木登りをし、絆を深めたコゲラにきゅうちゃん達はお礼がしたくて心を込めてお手紙を書きました。しかし、コゲラは字が読めないため手紙は受け取ってもらえませんでした。きゅうちゃん達の思いにきっと心温かくなったはずですよ。

人の心を温かくできるということは誰にでもできることではなく、難しいことだと思います。そんな素敵なきゅうちゃん達にこれからなれるように努力していきたいです。そして、誰かに「ありがとう」と言ってもらえる人になっていきたいです。

●学生10のタイトルとそのタイトルにした理由

【あなたの気持ち届けよう】

私はこの絵を見て、きゅうちゃんたちが誰かの手紙を届けているように見えた。その手紙は、いつも当たり前になりすぎてなかなか伝えられない感謝の気持ちなどが内容である。私は最近、人に何かしてもらって割に感謝の気持ちをなかなか伝えることがないと言うか、してもらってどこか当たり前になっているように感じている。伝えたいと思っても、今更感があるかなとか考えてしまう。言えなかったその感謝を私もきゅうちゃんが運んでくれる手紙に書きたいくらいだ。何かをしてもらうことなんて、当たり前ではないのである。伝えられていない感謝があるのはずっと頭にあったが、今回のレポートがきっかけで、よく考えることができた。急に感謝の気持ちをすぐ伝えるようにすることは難しいと思うが、気づいた時に「いつもありがとう」と伝えられるようになりたい。

学生9は、イラスト2と関連づけ、本人も言っているように「心温かく」なるストーリーをつくらせてくれた。そして、「誰かに『ありがとう』とってもらえる人になっていきたい」としめくくっている。

学生10は、誰かに何かしてもらってあたりまえではないと再認識し、「気づいた時に『いつもありがとう』と伝えられるようになりたい」としめくくっている。そしてそれは「今回のレポートがきっかけで、よく考えることができた」ことだという。

学生9の記述も学生10の記述も、人の心の大切さに改めて気づかされる内容になっている。感謝の気持ちや届けたい思いについてをテーマとしている学生が多かったイラストである。



イラスト6の記述例

●学生11のタイトルとそのタイトルにした理由

【月っておいしいかも】

きゅうちゃんが月を大きなスプーンで食べているように見えたからです。仲間と宇宙旅行に行くことになり月に着陸したあと宇宙船が誤作動をおこしてしまい緊急脱出をしなくてはならなくなりました。仲間のきゅうちゃんは脱出できましたが、1人のきゅうちゃんは乗り遅れて脱出できませんでした。しばらくは宇宙で暮らさなくてはいけなくなり食料もないため現地で調達するしかありません。お腹がすいたきゅうちゃんは月がとても美味しそうに見えました。我慢できなくなり大きなスプーンをつくり少し食べてみました。すると今まで食べたものの中で1番美味しいと感動しました。腹ペこだったため、半分以上食べてしまいました。月の形が変わって見えるのはきゅうちゃんが食べているからかも？

●学生12のタイトルとそのタイトルにした理由

【おそうじきゅうちゃん】

三日月の上に乗っているきゅうちゃんが何か持っているのを発見してそれがデッキブラシのようなものに見えました。これを見てこう思いました。デッキブラシを持ちながら左上の綺麗な星を見ているきゅうちゃんには左上の星にいる掃除の上手な先輩きゅうちゃんがいて空を見上げるといつもピカピカに光っている。左上の星は太陽で、太陽はすごく光り輝いていて太陽が出ている時は月の光は輝いて見えない。それを悔しく思ったきゅうちゃんは先輩きゅうちゃんに負けないようにブラシを持って一生懸命月を磨いて先輩に負けないぞという固く決心した様子を想像しました。

イラスト6ではユーモアのあるストーリー仕立てのものを選出した。全体的には夢・旅行・願いをテーマとするものが多かった。

きゅうちゃんが持っている「もの」が「スプーン」や「デッキブラシ」であるという読み解きは、ユーモアが感じられる記述の代表的なものである。「スプーン」ととらえた学生は他にもう1名いたが、「デッキブラシ」は学生12のみであった。「オール」ととらえる学生が多い中で、独自性が高い見方である。もちろん他にもユーモアや工夫のある記述例は多数あった。授業が6回目ともなると、学生たちの文章は「書くことに慣れてきた」「思考が柔軟になってきた」と、授業者側もより実感できるようになってくる。このような手応えは、繰り返し実践することで得られるものであるので、本稿を読んでいただいている先生方にも「カラーイラスト版きゅうちゃん」の継続的な活用をおすすめしたい。<sup>注</sup>



イラスト7の記述例

●学生13のタイトルとそのタイトルにした理由

【妖精】

今回のきゅうちゃんは、初めて見た時に蝶々のように見えました。しかし、よく見てみるときゅうちゃんの背景が実写ではなく絵のようになっているのに気づきました。なので私は蝶々ではなく絵本の中の妖精さんなのかなと思いました。そしてもう一つそう思った理由があり、きゅうちゃんの左足には黄色味があった白い花があると思います。さらに右足の方には白い花があると思います。それ以外は全て黄色です。そのため私はきゅうちゃんは特殊能力を持っているのかなと思いました。絵本の中の妖精もそういった能力はだいたい持っているだろうなと思ったからと、右足の方の花は今まさしくきゅうちゃんが黄色にしようとしているのかなと思いました。このきゅうちゃんは黄色が大好きで、後ろの黄色い花

も元は全部白だったのだと思います。そして謎にこちらを向いていますよね？そう、私がこの作業中のきゅうちゃんを偶然見つけてしまったのです。そして見られたことに気づいたきゅうちゃん。固まっちゃってます。かわいいですね。

●学生14のタイトルとそのタイトルにした理由

【どれもおいしそう】

このタイトルが思いついた理由はまず蝶は花の蜜を吸収する生き物だからです。そして吸う度に自分の栄養として送り込まれていく。その情景と教育心理学は繋がっていると思っていて、最初に発表されるレポートやラウンドロビンでのグループの案、そんな他の方達のユーモア溢れる案を吸収して次のレポートに繋ぐことが出来るからです。最初の私のレポートはただ文章で自由度の少ない作品でした。でも、他の人達のレポートの発表をみると、物語を作ったり、会話文を作ったり、レポートでもとても自由度溢れユーモアのある作品ばかりでした。そこから私は色々な案を吸収して、「今回は物語にしてみよう！」とか「今回は文章にしよう」など、授業が終盤になるにつれ、レポートを書く選択肢がどんどん増えました。そして最初にも言った通り、これは色々なおいしい(上手な)花の蜜(レポート)を吸収して自分のものにする、そんな繋がりがみえてこのタイトルにしました。

学生13はイラストを通してきゅうちゃんとコミュニケーションしている。その状況は、本当にそうであるかのようなタイムリーさを感じさせる、独自性の高い内容となっている。人に見つかって固まってしまっているきゅうちゃん、という読み解きは確かにかわいい。

学生14は、イラストの内容と授業を受けている自身の状況を見事に重ねて読み解いている。蝶は花の蜜を吸収する。自分はみんなの優れた部分を吸収する。情報の関連づけが上手で、授業への

モチベーションをも感じさせる。協同学習の成果と個人思考の充実感が伝わってくる内容である。

また、このイラストでは他に、「魔法使いのおばあさん」（筆者制作の絵図。例えば鹿内他2007）の変身薬で蝶になったきゅうちゃんや、サナギの頃から畑のキャベツを丸々一個1人で食べ尽くすことを夢見ていたきゅうちゃん等々、独自性の高い記述が多くみられた。



イラスト 8 の記述例

●学生 15 のタイトルとそのタイトルにした理由

【思い思われ、巡り巡って。】

木の上に座っているきゅうちゃん。何やらなんか考えて思い出にふけている様子。また今年も雪が積もり冬がやってきました。何度目の冬なのか。きゅうちゃんの周りに輝く宝石のような物が浮かんでいます。これは、きゅうちゃん自身の経験・思い出・成長など人生がギュッと詰まった大事な大事なものののです。その宝石を覗くと今までに起きた出来事や過去の様子、経験を見ることが出来ます。きゅうちゃんはそれをひとつずつ見て思い出に入り浸っていました。時には苦い経験や失敗したこと、やらかしてしまったことなど少し思い出したくないようなこともあります。けれどもそれら含めて成長に繋がる大切な素材なのです。沢山失敗して沢山笑って沢山色々な経験をして今のきゅうちゃんが出来ているのです。時には雨の日に傘をさして恋人と一緒に歩いた甘酸っぱい恋愛があったり、時にはコゲラの真似をしてレースしてみたり、時には羽が生えて飛んでみたり、時にはタイムリープしたり、配達員になってみたり、月の船を漕ぐ旅人や蝶になってみたり。それら一つ一つの出来事はきゅうちゃんの思い出となって蘇ります。また、ひとつひとつちゃんと学ぶことができました。それらの経験を通して大きく成長出来たきゅうちゃん。何にで

も変身でき何にでもなれるきゅうちゃん！あれっ？もしかしてきゅうちゃんって私たち？私たちはいつの間にかきゅうちゃんだったのかもしれない。私たちはこれからが大勝負！何にでもなれる若い自分たちだからこそ今を大切に生き、沢山学んできたのだと思う。得たものは無駄にはならない。これらを得たことにより少し、いや数段レベルアップしているだろう。教育心理学を取るか迷っていた頃の自分に言いたい。マジで取って大正解！こんなに発想力豊かになれたのは間違いなくこの授業のおかげである。自分でも成長に驚きを隠せないでいる。ありがとうきゅうちゃん！

また、人に思いやりをもったら、いつか思われる。返報性の原理を学ぶことができた。優しさは連続であり巡り巡って帰ってくる。なんでも行えば巡り巡って最後に自分に帰ってくる。当たり前のようにだがこの考え方は実に面白いと思う。人生は人との繋がりであり、沢山の人がいるからこそ、沢山の考え方があり100人いれば100通りであるからこそこの世は、凄く面白いと思う。それを否定するのではなく、共有しあっていくからこそ人間って面白い生き物だと思う。

●学生 16 のタイトルとそのタイトルにした理由

【繋げ】

きゅうちゃんが1人で座っているのを見かけた。いままで毎週きゅうちゃんと過ごしてきましたが、こう見るとだいぶ余裕があり、大人なオーラをまとったように見えます。

きゅうちゃんは、これまでの私たちとの旅で、思い出の詰まった合計9個の宝石を手にすることができました。1番奥に見える宝石から、手前になるにつれて新しい宝石になります。

1つ目の宝石。

まだ未熟なきゅうちゃんであった。カタオモイをし、想いをよせているきゅうちゃんがいた。ふと傘をさしてくれたのが、カタオモ

イで、鈍感な想い人。そして、私の事をなにも思ってくれない想い人。勇気のない自分。自信のない自分。自分に自信を持つと決心できた。いつか、自分に自信をもち、勇気を手に入れるその日まで...「決心の宝石」。

#### 2つ目の宝石。

自信を持つと決めた。しかし、どうすればいいのかわからない。憧れが全てだと思っていた。ある日、テレビを付けるとプロ野球選手、きゅう谷きゅう平選手がWBC決勝前にある言葉を放つ。「憧れるのをやめましょう。」小さい枠の中で見つけた憧れの人を忘れ、それらの洗脳を解き世界を知るため、自由に生きることを決心した。そして、旅に出る。「自由への宝石」。

#### 3つ目の宝石。

自由に生きる。良い意味の自由とは、それほど楽なものではない。「飛びたい。」絶対無理だと言われる。それはそうであろう、皆はもうとっくに夢を捨てている。諦めない。きゅうちゃんは諦めなかった、夢を。後に、飛べるようになることは、まだ知らない...「諦めない宝石」。

#### 4つ目の宝石。

きゅうちゃんは夢を見ました。自分が想像する、未来の自分を。必ずなれると信じているからこそ、具体的な目標もしっかり持っているからこそ、具現化して見えたのだろう自分を。自分の姿を見れた自分は、ある意味自分で自分の背中を押した。「信じる宝石」。

#### 5つ目の宝石。

きゅうちゃんは未来、自分がどうなっているかわかドキドキしている。きゅうちゃんだって、たまあに不安になる事だってある。そこで、自分を一度見つめ直す為にも遠い未来の自分に手紙を書いた。決心と共に。私は今何をしているのか。決して諦めない、諦めるものかと。「自分を見つめる宝石」。

#### 6つ目の宝石。

きゅうちゃんは、まだまだ旅を続けている。

また、夢をみる。想い人を思い出してしまう日だってある。夢の中で船を漕いでいる。このまま漕いでいても、たどり着く事のない月(想い人)へ。「届け、届け」と。「想いの宝石」。

#### 7つ目の宝石。

旅も最終章。「多くの世界と、この世の理を知り、沢山の人の関わり、助け、困難を乗り越えた者にしか見られないという絶景がある。それを見て、1段階きゅうちゃんとして成長すると、翼が生える。」昔からのきゅうちゃん界隈で噂されるこれらを現時点での目標(夢)とし、旅を続けてきたきゅうちゃん。苦悩を乗り越え、多くの人を助け、支え合ったきゅうちゃんは、とうとう絶景を見る。気づけば翼が生えていた。「支え合いの宝石」。

#### 8つ目の宝石。

きゅうちゃんは、故郷へ帰る。信じ続ける力で夢を叶え、旅を終えたきゅうちゃんは、最後の宝石を手にした。きゅうちゃんの民に讃えられ、祝福の時を迎えていた。「信じた宝石」。

日を重ねたきゅうちゃんは怠惰な気分であった。これから何をすればいいのか。何もする事がない。夢を叶えたはずなのに。昔の自分を思い出す。夢に向かってひたすら努力していたあの日々を。完璧な人なんてこの世にいない。夢は尽きない。まだまだ成長できる。「よし、また旅に出ようか。沢山の人の人に出会い、まだまだ成長するために。終わりのない旅へ。」そう思った瞬間、もう一つ、最後の宝石を手にしたのだ。それが手前の赤い石「無限の宝石」。写真のきゅうちゃんは、考え事をし、そんな永遠なる旅を決めた瞬間のきゅうちゃんである。きゅうちゃんの終わらない旅はまだまだ続く...

8回目授業のレポートは、学生15は全文4180字、学生16は全文4060字という長文で提出された。レポート課題においてはとくに字数指定をしていなかった。きゅうちゃんイラストの

読み解き課題の他に授業を総括するような課題を出したが、それぞれきゅうちゃんにあてた字数は学生 15 は 1940 字、学生 16 は 1582 字であった。この 2 名の字数は、8 回目授業レポートのトップ 2 であった。

読んでわかるように、学生 15 と学生 16 は 1 回目から 8 回目までのすべてのきゅうちゃんイラストを関連づけて読み解いている。2 名とも、毎回のレポートにおいても充実した記述をしてきていた。とくに学生 16 は感想の中で次のように語っていた。

最後のきゅうちゃんのタイトルと理由は、宝石をこれまでつけてきたタイトルと理由の写真と宝石と全て繋げて 1 つの物語とし、集大成の気持ちで作りました。これまでのを繋げようなんてこんなこと考えたの私だけの自信あります。(褒め)

学生 16 は本人が言うように「全て繋げて 1 つの物語とし、集大成」にしている。学生 15 は各回のきゅうちゃんの内容を短くまとめて文章に入れ込んでいた。そして、「私たちはいつの間にかきゅうちゃんだったのかもしれない。」と関連づけ、授業をふりかえってくれた。これだけ充実したレポートを届けてくれた 2 名に、筆者は拍手を送りたいくらいである。

#### IV. おわりに 本初子午線を超えて平和を思う

拍手を送りたいのは学生 15 や学生 16 だけではない。他のたくさんの学生たちも「きゅうちゃん」とともに深い学びを重ねてくれている。以上に紹介してきたのは 1 年次に「教育学」を受講している学生の例である。しかし、「教育学」を受講していなかった学生たちも創造的で深い学びをしてきていた。本稿を閉じるにあたって、授業者である筆者がどうしてもここで取り上げ拍手を送りたいものをひとつだけ紹介しておく。この授業だけを受講した学生の記述である。



イラスト 4 の記述例

#### ●学生 17 のタイトルとそのタイトルにした理由

##### 【本初子午線を超えて】

背景の上が昼、下が夜のように見えました。また、後ろにある方位記号は、東西南北、昼夜関係なく、本初子午線を超えてどんな国の人も互いを認め合える。そんな風に見えました。二人のきゅうちゃんは、違う国に生まれ育ち方も価値観も違うきゅうちゃんです。「君のほうは夜みただけどどこの国の人のなの?」「私はきゅうちゃん王国だよ」なんて言っているように見えました。二人のきゅうちゃんは、それぞれ違う国出身で、文化も価値観も違いますが、たくさん話し合うことでお互いの文化、価値観を分かり合っているように見えました。人間が真に分かり合うことは難しいことだと思います。生まれてくる国が違えばなおさらです。現在の世界を見れば、肌の色で差別をし、自分の国のため国土を奪い合い、宗教の違いで紛争が起きるなどあります。もちろんすべてが、間違っているとは言いません。各々が掲げている正義のためや、家族のために争っている人もいます。ですが罪のない多くの人がなくなっている現状を受けると、大学生の私でも「それは違う」と分かります。

分かり合えずとも、互いに認め合うことくらいはできると思います。なので今後の世界はみんなが認め合えればいいなと思います。  
(\*すごいキレイ事です)

学生 17 は最後に「(\*すごいキレイ事です)」と追記している。確かに、各国で起こっている紛争や、世界の様々な不条理を目にするたび「こう

いうことは終わらないのではないか」という気持ちになってしまう人は多いかもしれない。しかし、ひとりでも多くの人が「良い方向に世界が行くように」と思うことが重要である。筆者もそのひとりとして、また、きゅうちゃんが恵方を示してくれると信じて、共に歩んでいきたい。

## 謝 辞

論文執筆や授業づくりでいつも丁寧にご指導いただいております鹿内信善先生に深く御礼申し上げます。本稿の完成までにもたくさんのお力添えをいただきました。ありがとうございます。

## 注

前報および本稿で紹介しているカラーイラスト版きゅうちゃんのダウンロードシステムを構築中です。カラーイラスト版きゅうちゃんおよびその他のきゅうちゃん素材を活用してみたい方はしばらくお待ちいただければ幸いです。

## 引用・参考文献

- 石田ゆき 2022 「きゅうちゃんの歴史(Ⅰ)ー誕生編ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16号 pp.29-37
- 石田ゆき 2023 「きゅうちゃんの歴史(Ⅱ)ーとっても大事な『ちょこっと使い』編ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』17号 pp.31-44
- 石田ゆき 2024a 「きゅうちゃんの歴史(Ⅲ)ー『出席確認』への活用ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』22号 pp.31-48
- 石田ゆき 2024b 「協同教育の教材活用法2ー看図アプローチにおける『きゅうちゃん』活用術」『看護教育』Vol.65 No.4 医学書院 pp.438-443
- 鯨島輝美・石田ゆき 2023 「演習型授業における学生の主観的学びの記述についての言説分

- 析ー自己紹介に看図アプローチを活用した事例からー」『協同と教育』18号 pp.53-73
- 鹿内信善 2025 「ひろがる『きゅうちゃん』の活躍」鹿内信善・石田ゆき(編著)『見方・考え方を育てる授業デザインー看図アプローチの理論と実践ー』TRIADÉ|トリアーデ pp.99-127 (電子書籍刊行手続き中)
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち●看図作文レパトリリー●』ナカニシヤ出版
- 鹿内信善・石田ゆき編著 2025 『見方・考え方を育てる授業デザインー看図アプローチの理論と実践ー』TRIADÉ|トリアーデ (電子書籍刊行手続き中)
- 鹿内信善・栗原裕一・渡辺聡・伊藤公紀・石田ゆき 2007 「看図作文の授業開発(Ⅰ)ー心理的リアクタンスを作文の動機づけに活用する試みー」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第57巻第2号 pp.101-111

2024年12月30日受付

2025年1月7日査読終了受理